

指導事項	学年	学年の主目標	進路学習の主題
自己の個性や家庭環境についての理解 ↓ 職業・上級学校などについての理解 ↓ 就職・進学についての理解	1年	自己をよく理解し、将来の進路についての関心を高め、すすんで自己の進路を計画しようとする態度を養う。 (1) 自分を正しく理解する態度	1. 進路の意義 2. 自己理解 3. 家庭環境について進路に関する知識と理解 4. 進路計画の立て方
	2年	1年次の進路研究を確認し、主として進路情報を中心として学習させ、将来の進路選択の能力や態度を養う。 (1) 産業や職業の意義を知り、主なものについて、その特色を理解させる。	1. 先輩の歩んだ進路を中心として進路に対する研究 2. 進路に対する研究 3. 私の適性をどう判断する 4. 私の人生と進路 5. 将来の生活設計
	3年	進路に関する具体的な諸活動を中心として学習させ、進路の選択・決定および将来の生活に適応・進歩する能力や態度を養う。 (1) 自己を総合的に理解し、進路についての考えをいっそう深める。	1. 進路の確認と具体的選択 2. 共通1次受験の心構え 3. 就職・公務員・専門学校・私大受験者の心得

④ 相談の対象

相談の内容および目的によって、個別相談、グループ相談、保護者相談、3者相談、部外者相談として行われる。

⑤ 相談の手続きと担当者

「進路相談カード」(資料5)を利用しての教師の呼び出し相談と、生徒の申し出による自主相談の形態をとっている。

受付月日 月 日 ()	HRT	Ⓔ
-----------------	-----	---

特別自主相談				
学年	組	生徒番号	生徒氏名	相談担当希望者名
				先生
※ 相談の具体的内容				
※ 指導・助言の記録				
相談日時 月 日 () 時 ~		相談場所		相談担当者 Ⓔ
分類項目	(1) 自分の能力・適性などについて (4) 職業について (2) 進路希望と進路計画について (5) 進路の選択について (3) 上級学校の内容や特色について (6) その他			

項目	観 点	評 価			所見
		1年	2年	3年	
自己理解	基本項目	氏名・現住所・学歴			
	家庭	家族構成・環境・方針・進路に対する考え方			
	非能力的属性	性格・行動・態度・出欠など			
	態度	教科外の活動・クラブ・生徒会・クラスなど 学校外の生活・生活設計・休業中の生活・友人関係			
進路発達に関する項目	進路意識	学歴・生育歴・進路希望の変化			
	進路設計	進路設計・現在の希望進路の検討			
	自己確立	人生観・社会観の確立・自覚 価値観・目的観の確立・自覚			
	勤労観	仕事の中の生きがい・勤労観・生活と仕事			
進路情報の研究と把握	情報研究・態度				
	希望進路の量・質				
進路決定	進路選択の検討	情報・自己理解のうえにたつ総合的な検討			
	進路の決定	受験の手続き、心構え・自覚			
	進路決定後	決定(内定)後の心構え・学校生活・将来に対する心構え、自覚・適応への自覚			

※ 記入上の注意
 (1) 評価 A 問題なし
 B もう一度確認の要あり。
 C 問題点あり。要に相談・指導を重ねる要あり。
 (2) 所見 まとめた項目に対する総合所見、観察などによる記録を簡単に記載。

② 進路相談の方法および形態

生徒の実態・問題の内容、相談の目的などに応じて、定期相談、3者相談、特別相談、随時相談および自主相談の形態をとって行われる。

③ 相談の場所

相談活動は、ゆるがせにできない重要な教育活動であるので、極力いろいろな場の活用をすすめ、相談室の整備を図るように配慮している。

進路相談の担当者は、直接生徒を最もよく知っており、また継続指導のできるHR担任が原則であるが、相談の内容によっては、その援助者・協力者として、進路指導主事や進路指導部の相談係、その他の教師が適当な場合も考えられる。進路相談には、すべての教育活動を通じての多くのチームワークが必要であり、それぞれの立場から連携をはかり、共通理解のうえにたつた協力態勢をとるように配慮している。「個人指導カード」作成のねらいの1つも、より効果的な進路相談のすすめ方にある。従前のHR担任教師のみによる相談形式から脱皮し、「進路相談カード」を作成して、相談の手続きを改善すると